

学校法人 東放学園

東放学園映画専門学校 殿

## 2023年度 学校関係者評価報告書

東放学園映画専門学校  
学校関係者評価委員会

### 1. 学校関係者評価委員

#### 【教育・学校運営に関する有識者/委員長】

月野木 隆行 学校法人東放学園 元理事  
学校法人東放学園 東放学園専門学校 元校長  
学校法人東放学園 東放学園映画専門学校 元校長

#### 【就職先及び関連業界関係者】

浅井 千瑞 株式会社 メディアミックス・ジャパン 制作演出部部长 プロデューサー  
加藤 亮一 株式会社 studio K

#### 【高等学校教諭】

竹内 一仁 東京都立小岩高等学校 1学年主任 主幹教諭

#### 【卒業生(企業等委員)】

芦塚 明子 デジタル映画科 卒業生 株式会社 スクーターフィルムズ 取締役COO・プロデューサー

### 2. 事務局

松島 司 東放学園映画専門学校 校長  
蒲田 直樹 教務教育部 部長  
青柳 高広 学務管理部 部長  
袴田 誠 学務管理部 (学校評価委員)

### 3. 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年11月25日(土) 15:00~17:30 東放学園映画専門学校 3M4教室

### 4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

## 4. 学校関係者評価結果

### 【評定内容結果】

- 4 : 適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後更に向上させるための意欲がある。
- 3 : ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 : 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 : 全く対応しておらず不適切である。学校の方針から見直す必要がある。

### I. 2022年度重点目標と達成計画について

- 重点目標1 学校デザインの見直し
- 重点目標2 中途退学防止策の強化
- 重点目標3 就職率の向上

| コ メ ン ト  | 評定 |
|--|----|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校デザイン」の定義が、明確でない。「ランドデザイン」的な教育コンセプトではなく、学校行事や校内施設の利用について記述してある。具体性も欠けている。</li> <li>・(事務局より)募集状況も振るわないことから、学科編成や校名変更、校内施設の利用を含めたものを広く中から見直すことを定義している。募集状況が良い映画科以外の学科にも目を向けてもらう為の見直しをする。</li> <li>・映画校の強みを生かした見直しをすることは読み取れた。</li> <li>・(事務局より)今年度より個人面談強化と学生の相談先を複数用意することを実施している。</li> <li>・不登校学生の情報共有と学生が相談しやすい体制作りは評価できる。カウンセラーの個性や生徒との相性もあるので、根気よい対応を望む。</li> <li>・全ての項目事項に渡り、自己評価値が低い。もっと自信を持って目標を達成してもらいたい。</li> </ul> | 4  |

### II. 評価項目別取組状況について

- 基準1 教育理念・目的・育成人材像

| コ メ ン ト   | 評定 |
|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・クリエイター育成の中で、チームへの順応性がある学生と個の才能に魅力がある学生にもどう向き合うか、課題があると感じられる。</li> <li>・時代が変わり、個々の対応がより求められている。様々な対応パターンを用意する必要があるのではないか。</li> <li>・最近の新入社員は、傷つくことが怖く、失敗したと思われたくない、何の為にやるのか分からないと動けないと感じられる。目標と過程を決めない事が重要である。壁にぶつかった時にどう回避するのか「順応性」に関してのカリキュラムを導入したらどうか。</li> <li>・クリエイター育成は、個を育てないといけない一方、学校・授業への適応能力が求められるという矛盾がある。幅広く学べるカリキュラムは良い面もあれば悪い面もある。信念を持って運営してほしい。</li> </ul> | 4  |

- 基準2 学校運営

| コ メ ン ト  | 評定 |
|--|----|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人の運営方針と学校単位の方針の縦の結びつきや機能性を再検討すべきである。校長を中心に主体性を持って運営してもらいたい。</li> <li>・(事務局より)運営会議(部門長会議)と校長会議メンバーがほぼ同一の為、相反する独自の動きをすることは難しい状況ではあるが、学科名や学校名変更等において引き続きネゴシエーションしていく。</li> </ul> | 4  |

基準3 教育活動

| コメント  | 評価 |
|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の卒業生は、スキルに問題がないが、現場も年々変化していて、「対応力」が更に求められている。</li> <li>・資格、免許以外の別の評価の表し方があるのではないか。</li> <li>・(事務局より)アニメソフト企業でクリエイター系検定が実施されている。導入を検討したいが、採用試験の判断基準になるのかまだ不明である。</li> <li>・アニメスタジオでは、最初は動画をやらされるが、演出意図が必要であることを理解しているか等を測る為、『動画検定』を導入する声が挙がっている。</li> <li>・資格、免許にとらわれることなく、上手く関わりながら学修成果の表し方を模索すべきである。</li> <li>・教員確保も苦慮しているのは分かるが努力してもらいたい。</li> <li>・高校では、生徒が自分自身の授業への取り組みを評価した上での全教科対象の記名式アンケートを実施している。</li> <li>・(事務局より)現在は、学期末にGoogleフォームにて学科科目のみ授業評価アンケートを実施しているが、今後は、最終授業終了時に全科目での実施を検討している。</li> </ul> | 3  |

基準4 学修成果

| コメント   | 評価 |
|--|----|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率、離職率や免許・資格だけでは測れない側面がある。成果の表し方を考えるべきではないか。</li> <li>・(事務局より)卒業制作が、学生映画祭や海外映画祭で評価されている。</li> <li>・卒業生の活躍情報を把握仕切れていないと感じられる。更に情報収集して、もっとPRした方がよい。それこそが学修成果に値する。</li> <li>・(事務局より)在学中からフォローし、関係性を築いていく必要性があると感じる。</li> </ul> | 4  |

基準5 学生支援

| コメント  | 評価 |
|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援に対して、在校生、卒業生からのフィードバックシステムはあるのか。</li> <li>・(事務局より)支援に対するフィードバックがシステム化されていない。フィードバック結果のフォーマット作成を検討する。</li> <li>・進路指導だけでなく、学校生活全体においてもクラスアドバイザーと学務管理部が連携して早期に対応しているのは、評価できる。</li> </ul> | 4  |

基準6 教育環境

| コメント  | 評価 |
|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた予算の中で、ハード面、ソフト面共に業界の動向を踏まえて優先順位づけが重要ではないか。</li> <li>・(事務局より)校内LED化は、来年度以降近々に、地下Studio Deeは今年度末にも実施予定である。機材に関しては、教員が展示会や教育課程編成委員会で業界関係者から情報収集して、導入計画を立てている。</li> <li>・アニメ業界では、CLIP STUDIO PAINTが使用出来れば良く、アプリケーションは、会社によって違う。入社後に取得すれば良い。</li> <li>・更なるバリアフリー化、災害対策の充実を望む。</li> <li>・(事務局より)引き続き災害に対しての緊急時対応に課題があると認識している。</li> </ul> | 3  |

基準7 学生の募集と受入れ

| コメント  | 評価 |
|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集状況を良くするには、入学担当部署との連携が重要である。</li> <li>・(事務局より)入学担当者と映画校募集担当者で、「オープンキャンパス対策部」として意見交換をして、提案された意見は原則実施するようにしている。</li> <li>・高校側からも入学担当者の対応が良く、学生への説明も丁寧でわかりやすく、安心して勧められる学校である。</li> <li>・オンラインと対面のハイブリッド的な募集活動は評価出来る。一方、今後も対面式を重視することが重要である。</li> <li>・学校案内パンフレットをWEBのみにした大学等があるが、不便さを感じる。冊子とWEBのハイブリッド式が理想であると感じる。</li> <li>・(事務局より)学校案内パンフレットは、地方での需要もあり、完全デジタル化はせず、冊子を簡略化して、デジタルに誘導する方針である。</li> <li>・4年制大学に対するメリットの明確化が分かりやすくあれば良いのではないか。</li> </ul> | 4  |

基準8 財務

| コメント           | 評価 |
|----------------|----|
| ・特筆すべきコメントは無し。 | 4  |

基準9 法令等の遵守

| コメント           | 評価 |
|----------------|----|
| ・特筆すべきコメントは無し。 | 4  |

基準10 社会貢献・地域貢献

| コメント  | 評価 |
|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度からの変化がないようであれば、新たな取り組みをする事よりやれることを絞って重点的に実施することが重要である。</li> <li>・学校の特色を生かした学生主体の活動がより必要であると感じる。</li> <li>・学校側に余裕がなく、やればやるほど負担が大きく、大変な事は理解できるが、例えば、町内会の祭りで神輿を担ぐなどの人員要員でも良いから地域貢献した方が良い。</li> <li>・(事務局より)授業に上手く組み込んでいけるか課題があるが、ボランティア的な映像や作品を制作する事も考えたい。</li> </ul> | 3  |

所感

|   |
|---|
| <p>今年度は、3名の新任委員を迎えて、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により、4年ぶりの対面方式での実施となった。委員各々の観点から、忌憚のない評価・提案を頂いた。学校関係者評価委員会の実施時期について、11月では、自己評価報告書の記載内容が、既に達成・改善している事項がある為、早期開催を求める意見を得た。その為、2024年度は6月に実施予定である。</p> |
|---|

以上